

第4回博多産婦人科フォーラム

日時

2026年**10**月**6**日（火）18:50～20:30

会場

エルガーラホール 中ホール1 (7F)

住所：福岡県福岡市中央区天神1丁目4番地2号
TEL：092-711-5017

【製品紹介】18：50～19：00 癒着防止吸収性バリア セプラフィルム 科研製薬株式会社

座長

四元 房典 先生

福岡大学医学部 産科婦人科学講座 主任教授

【講演1】19：00～19：30

演者

「予期せぬ癒着胎盤の用手剥離と搬送のタイミング」

永田 浩士郎 先生

福岡大学医学部 産科婦人科学講座 助教

【講演2】19：30～20：30

演者

「早産予防のためのプレ・インターコンセプションケアと妊娠中の管理」
～マイクロバイオーム解析から経膈超音波断層法まで～

大槻 克文 先生

昭和医科大学江東豊洲病院 副院長、周産期センター長、産婦人科教授

※単位付与予定

【日本専門医機構】学術集会参加単位：1単位、産婦人科領域講習受講単位：1単位

※JSOGカードまたは、JSOGアプリにて受付致します。

【日本産婦人科医会】研修会参加証明

※JAOG（日本産婦人科医会）2次元コードまたは会員番号にて受付致します。

【日本医師会】生涯教育講座cc：71「流・早産および満期産」1単位、15（臨床問題解決のプロセス）0.5単位

※日医の生涯教育講座の単位取得には、医籍登録番号が必要です。

※お弁当をご用意しております。

共催：博多産婦人科フォーラム/科研製薬株式会社



上記URL、もしくは二次元コードから必要事項をご入力ください。
当社では、ご入力いただいた個人情報は、「科研製薬の個人情報保護に関する取組み
<https://www.kaken.co.jp/privacy/index.html>」に従い、取り扱います。内容をご確認いただき、同
意のうえ、次にお進みください。

【お問い合わせ】

科研製薬株式会社 西日本統括営業部 福岡営業所 波戸 将平

TEL : 070-7548-1985

Mail : hato_shohei@kaken.co.jp

Information

●詳細は電子化された添付文書をご参照ください。電子化された添付文書の改訂にご留意ください。

* 2021年3月改訂(第14版)
* 2017年11月改訂(第13版)

癒着防止吸収性バリア

セスラフィルム

ヒアルロン酸ナトリウム/
カルボキシメチルセルロース癒着防止吸収性バリア

高度管理医療機器 保険適用

承認番号: 20900BZY00790000
承認年月日: 1997年8月26日
再審査結果公表年月: 2015年3月
規制区分: クラスIV
医療保険償還上の取り扱い: 特定保険医療材料
機能区分: 100 合成吸収性癒着防止材 (1)シート型

【禁忌・禁止】

- * 1. 適用対象(患者)
 - (1)貼付部位に感染が認められる患者に使用しないこと。[膿瘍、腹膜炎等が発現するおそれがある。]
 - (2)本材の成分に対し過敏症の既往歴のある患者に使用しないこと。
- * 2. 使用方法
 - (1)再使用禁止。[本材は滅菌済み製品であり、1回限りの使用である。]
 - (2)本材の腸吻合部縫合線上へのラッピングは行わないこと。[本材を吻合部にラッピングした患者群で吻合部縫合不全、膿瘍、瘻孔、腹膜炎、敗血症の発生率が高かったとの報告がある。]

形状・構造及び原理等

1. 形状・構造
本材は生体吸収性材料であり、原材料としてヒアルロン酸ナトリウム及びカルボキシメチルセルロースを2:1の割合(重量比)で含有する。本材は、半透明のフィルム状である。
2. 原理
(1)本材は、物理的バリアとして癒着防止効果を発揮する。
(2)ラットを用いた試験では、本材は、適用後およそ24〜48時間以内で水和したゲル状になり、およそ7日間貼付した組織に留まり、体内に吸収された後は、28日以内に体外へ排出される。

*3. 種類

本材には以下の種類がある。

包装種類	フィルム1枚あたり		1袋あたり フィルム合計面積
	寸法	面積	
1枚入り×1袋	12.7cm×14.7cm	186.69cm ²	—
2枚入り×1袋	12.7cm×7.35cm	93.35cm ²	186.69cm ²
4枚入り×1袋	12.7cm×7.35cm	93.35cm ²	373.38cm ²
4枚入り×1袋	7.35cm×6.35cm	46.67cm ²	186.69cm ²

使用目的又は効果

術後の癒着の軽減[腹部又は骨盤腔の手術患者に対して、腹部切開創下、腹膜損傷部位、または子宮及び付属器損傷部位に貼付し、術後癒着の頻度、範囲、程度を軽減する。]

使用方法等

1. 本材は、腹部又は骨盤腔の手術が終了し、腹部又は骨盤腔を閉じる直前に適用すること。
2. 本材は、必要に応じてフィルムをカットし、使用前、乾いた状態にしておくこと。[本材は、湿性組織への付着性が高いため、使用前に湿らすと貼付できなくなる。]また、本材適用に使用する器具は出来るだけ乾いた状態にしておくこと。
3. 余分な水分は、本材が組織と付着するのを妨げるので、使用部位をできるだけ乾いた状態にしてから使用すること。
4. 切開部及び関連する外科的損傷部が、充分に覆われるよう貼付すること。
5. 本材を適用する際、他の組織に付着しないよう適用部位に直接貼付すること。適用部位以外の組織に付着した場合は、生理食塩液等を用いて穏やかに剥がすこともできる。
6. 2枚以上使用する場合は、損傷部が完全にそして連続して覆われるように充分重ねて使用すること。
7. 本材は、縫合して使用しないこと。
[使用方法等に関連する使用上の注意]
- *1. 本材の取扱いは、乾いた器具や手袋を用いるなど慎重に行うこと。
- *2. いったん本材を組織に貼付した後は、本材を動かさないこと。
3. 本材は、水分に接触すると著しく操作性が低下し、適切に貼付を行うことができないため、特に腹腔鏡下手術で使用する場合は、腹腔鏡下手術及び本材使用の十分な経験を有する医師が使用すること。
4. ビニール(内包の透明部分)は、患者体内への接触適用を意図していないので、生体には接触しないよう注意すること。
5. 以下のような手順で使用する。
 - 1)適用直前にポリエステルボイルを開封し、滅菌済の内包を、清潔な領域に取り出す。
 - 2)内包から、本材の入ったホルダーを取り出す。
 - 3)本材をホルダーから取り出す前に、乾いたハサミで貼付する適用部の大きさと形に切断する。
 - 4)ホルダーから本材を1〜2cm引き出し、それをリードとして適用組織に貼付する。
 - 5)必要に応じ、本材の入ったホルダーを少し折り曲げ弧状にし、腹部・骨盤腔に挿入し易くする。
 - 6)組織又は臓器の所定の部位にしっかりと接着するように乾いた手袋又は、ガーゼを用いて本材を穏やかに押さえるが、ホルダーより本材を少しずつ取り出す。
 - 7)適用後は、ホルダーを廃棄する。
 - 8)貼付が終了したら、通常の手法により閉鎖する。

使用上の注意

1. 使用注意(次の患者には慎重に適用すること)
腹腔内に感染が認められる患者[腹腔内に感染または穿孔のある患者において膿瘍、腹膜炎等の報告がある。]
2. 重要な基本的注意
* (1)重度の薬物アレルギーの患者に本材を使用した場合の安全性及び有効性については、臨床で確立されていない。
(2)本材使用後に、疼痛、腹部膨満、及び発熱の臨床症状を伴う異物反応が報告されている。このような症状を起こした場合には、適切な措置を施すこと。
(3)本材の使用後に炎症性反応、膿瘍等が報告されているので、治療上の有益性を勘案した上で使用すること。
* (4)他の癒着防止材との併用で、本材を適用した場合の安全性及び有効性については、臨床で確立されていない。
* (5)本材はガンマ線滅菌されている。開封後再滅菌して使用しないこと。また、使用前に本材の包装が開封されたり、破損している際は使用しないこと。
3. 不具合・有害事象
使用成績調査終了時(実施期間:1998年4月1日〜2000年8月25日):
収集症例数724例中、有害事象報告は8例(1.1%)10件であった。その主なものは、発熱4件(0.6%)、めまい、嘔気、頭痛、便秘症、心窩部痛及び腹腔内出血が各1件(0.1%)であった。
(1)重大な有害事象
1)創感染、膿瘍、腹膜炎、敗血症:創感染、膿瘍、腹膜炎、敗血症(いずれも頻度不明⁽¹⁾)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合は適切な処置を行うこと。
2)ショック:ショック(頻度不明⁽²⁾)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合は適切な処置を行うこと。
(2)その他の有害事象
下記のような症状があらわれることがあるので、異常が認められた場合は適切な処置を行うこと。

	0.2〜1%未満	0.2%未満	頻度不明 ⁽¹⁾
* 腹部事象		腹腔内出血	イレウス、浮腫、癒着、 創傷、吻合部漏出、 瘻孔、腹腔内液貯留
その他	発熱	めまい、嘔気、 頭痛、便秘症、 心窩部痛	アレルギー反応、肝機能検査値異常、皮疹、 腹痛、下痢

注)自発報告により認められている有害事象のため、頻度不明。

4. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用
妊娠中の可能性に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には使用しないことが望ましい。

*5. その他の注意

海外のレトロスペクティブ研究において、特に、極めて特殊で限定されたデバルキング手術を要した卵巣癌、原発性腹膜癌又は卵管癌患者で本材を使用した場合に、腹腔内液貯留、膿瘍の発現リスクが高かったとの報告がある。

保管方法及び有効期間等

1. 保管方法: 室温保存
2. 有効期間: 3年